

ナビゲーター

その影響とリスクは関係する貿易相手にとって世界的な関心事である。

米国の貿易相手国は世界中に存在するが、メキシコにとって米国は特に親密な国であり社会的、政治的、さらには国家安全保障上の利害を共有する隣国でもある。同じく国

アメリカ合衆国第47代大統領の選挙の重要性と適切性は全世界の関心事である。米国はGDP 28・78兆ドルという世界最大の経済大国であり、中国18・53兆ドル(GDP、以下同)、ドイツ(4・59兆ドル)、日本(4・11兆ドル)を上回り、

日本への期待
世界各地から

B

104

境を接する隣国であるカナダとメキシコ、そして太平洋をはさみ一方に離れている日本も考慮に入れて、貿易、外交そして世界安全保障の観点から、この選挙の展開、候補者、そして政策提案を注意深く見守る必要がある。

米国大統領選挙が実施されると、近隣諸国だけでなく、米国が貿易関係を結んでいる世界中の200を超える国、地域そして企業までもが、自国の国境をはるかに越えて、その結果に目を向ける。

今回の選挙でも同じだが、

貿易関税は維持されるのか

これまで以上に世界を変える要素を含んでおり、人権、安全保障、世界貿易にかかわる二つの異なる思想が提示され、衝突している。歴史上初めて、起訴された元大統領が

メキシコから(上)

再選を目指して出馬し、2度の暗殺未遂事件の標的にもなった。米国の政治や社会だけでなく、世界中で起きている変化を示す明らかなサインで、まったく新規の展開といえる。

米大統領選(2)

11月5日、約1億6千万人に関するいくつかの漠然とした要素を含んでおり、人権、安全保障、世界貿易にかかわる二つの異なる思想が提示され、衝突している。歴史上初めて、起訴された元大統領が

の米国民が、共和党のドナルド・トランプ前大統領、民主党のカマラ・ハリス現副大統領、無所属のコーネル・ウエスト、緑の党のシル・スタイン、自由党のチェイス・オリバーの5人の候補者から次期大統領を選ぶ。

9月10日、ドナルド・トランプ(78歳)とカマラ・ハリス(59歳)の最後の、そして唯一の大統領選討論会が行われ、互いへの一連の攻撃をしつつも、いくつかの検討項目に関する見解と今後の政策に

であるのに対し、メキシコからの輸入は4752億ドルで、対メキシコ物品貿易は1524億7千万ドルの赤字となる。米国がメキシコとの貿易収支が黒字だったのは1994年の13億5千万ドルにさかのぼる。

米国の対中貿易赤字は2791億ドルと対メキシコ貿易よりはほぼ83%高く、対日貿易赤字はほぼ半分46%(715億5千万ドル)である。このような赤字のため、トランプ政権時代には貿易関税が課され、バイデン政権でもそれが維持されてきた。

【フーマン・ウルフ、リーム中産連】

(月曜日に掲載)